



いつまでも住み続けたいと 思える地域づくりへ

たすけあいにつながる忠生地区協議会



市内全10地区に設立されている地区協議会では、日々の地域交流や課題解決に取り組んでいます。

今回は、忠生地区協議会と忠生第1高齢者支援センター、近隣の事業者、地域のボランティアの方々等、さまざまな人々の協力によって定期運行が実現した移動支援事業「お買いものバス かしのみ号」の取り組みから、地区協議会の活動をご紹介します。

問 市民協働推進課 ☎724・2783



お買いものバス

かしのみ号とは

「高齢になって車やバイクに乗れなくなると、買い物や外出に困る」という地域の声を受けて忠生2丁目では始まった買い物支援事業です。毎週水曜日の午前中にかしのみ公園(忠生)を出発し、買い物先のショッピングセンターへの送迎を行っています。



かしのみ号に関わる皆さんの声



忠生第1高齢者支援センター 田代さん・持永さん

地域の高齢者の方を対象にアンケートを実施したところ、忠生2丁目近隣で買い物に不便を感じている方が多いことが分かりました。地域のサービス事業所による車両とドライバーの提供や、住民ボランティアさんによる当日の添乗など多くの方々から協力の声が寄せられ、定期運行に向けた話し合いやテスト運転を繰り返し実施してきました。

地域の皆さんの力が集まって運行につながったかしのみ号は、買い物の不便を解消するだけでなく、「みんなでおしゃべりしながら買い物に行けるのが楽しい」と利用者の皆さんの交流の場にもなっています。これからも住民の方の声を聞いて足を運び、「支援センターも地域の一員」という気持ちで、地域に寄り添った支援を続けていきたいと思えます。



老人クラブ連合会会長 小澤さん

この地域は古くから住んでいる人々が仲良く、和気あいあいとしています。利用者の皆さんに「自分たちは利用していただければいい」という考えはなく、バスの乗降時の点呼など、互いにできることを行い、協力し合おうという意識があります。

この事業を通して、老人クラブや自治会も良いことをやっているな、と認めていただけるといいですね。

利用している方の声

友達と会って話す機会になってうれしい

車がなくても買い物ができる便利!



忠生地区協議会 代表 高橋さん

この地域の重要な課題のひとつは、お年寄りが日常的に利用できる交通手段が限られていて、交通が不便なことです。この事業は、介護事業者、老人クラブ連合会、ボランティアの方々、町内会自治会等が、市や社会福祉協議会などの応援を得て実施が可能となった理想的なケースと言えます。

かしのみ号によって「地域にいる人や組織が力を合わせると、困っている人を助けることができる」「人を助けてあげたい、という善意を持った人がたくさんいる」ということが伝わり、他の課題解決をはかる活動がさらに広がっていくことを期待しています。また、地域のネットワーク組織として、こうした活動を引き続き応援していければと思います。



かしのみ号に乗車する方々は、おそろいの缶バッジをつけています。



インタビューの全文は市HPで公開しています。

